

インフォメーション・コーナー

会 告

- ダム研究委員会シンポジウムの開催について (再) ㊦ 11月22日開催……………104
- 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い……………104
- CPD 単位の算出基準の一部改定について (平成 25 年度以降) ……104
- 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!! ……104
- 論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記載方法の変更について……………105
- 「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております! ……105
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い……………106
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ……………106
- 第 34 回北海道支部シンポジウムの開催について (第 2 報) ㊦ 参加申込締切 11 月 22 日……………107
- 平成 25 年度資源循環研究部会研究発表会の開催について㊦ 11 月 15 日開催……………107
- 農地保全研究部会第 34 回研究集会の開催について (第 3 報) ㊦ 11 月 26, 27 日開催……………108
- 平成 25 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について 締切 12 月 6 日……………109
- 「実務における新しいニューマーク法によるため池等堤体の地震時安全性評価手法」技術講演会
の開催について㊦ 11 月 12 日開催……………110
- 学会記事……………111

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

㊦ のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 25 年 11 月 13, 14 日	京都支部	第 70 回研究発表会	—	京都市	81 巻 4,6 号
平成 25 年 11 月 15 日	資源循環研究部会	平成 25 年度研究発表会	資源循環技術を活用した強い 地域づくりを目指して	東京都	81 巻 7,11 号
平成 25 年 11 月 22 日	ダム研究委員会	ダム研究委員会シンポジウム	平成 22~24 年度の研究成果 報告	東京都	81 巻 10,11 号
平成 25 年 11 月 25, 26 日	水文・水環境研究 部会	第 26 回シンポジウム	—	野々市市	81 巻 10 号
平成 25 年 11 月 26, 27 日	農地保全研究部会	第 34 回研究集会	東日本大震災により被災した 農地の復旧・復興のいま	仙台市	81 巻 6,8, 11 号
平成 25 年 12 月 3 日	北海道支部	第 34 回シンポジウム	北海道における大区画圃場の 整備	札幌市	81 巻 10,11 号
平成 25 年 12 月 7, 8 日	応用水理研究部会	平成 25 年度講演会	農業農村工学分野における応 用水理学に関する研究	京都市	81 巻 9 号

第 81 巻第 12 号予定

展望：モデル先に在りき？：長 裕幸

小特集：私のお薦めのシミュレーションモデル

- ①メコン委員会で出会ったモデルたち：南 格
- ②SWAT モデルの水田地帯を含む流域への適用の問題点と改善に向けて：加藤 亮ほか
- ③WEPP モデルによる土壌侵食・土砂流出解析：大澤和敏ほか
- ④HYDRUS-1D：土中水分・熱・溶質移動予測プログラム：斎藤広隆ほか

技術リポート

北海道支部：「農地・施設保全整備情報」の取組みについて：桃井謙爾
 東北支部：横手西部地区における湛水被害と排水再編計画について：北川和彦ほか
 関東支部：水質保全活動施設整備に向けたワークショップ：古賀裕之ほか
 京都支部：水管理システムへのクラウド方式の導入の検討：寺田大輔ほか
 中国四国支部：維持管理費低減および水路景観向上に配慮した防草対策：今村弘志ほか
 九州沖縄支部：ため池底樋工事の補助工法の事例について：廣瀬勝彦ほか

小講座：オープンソースソフトウェアと R：合崎英男

私のビジョン：琉球石灰岩帯水層における地下水シミュレーションに関する課題：安元 純

ダム研究委員会シンポジウムの開催について (再)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村工学会では、平成元年度から、学識経験者で構成される「ダム研究委員会」を設け、農業用ダムの築堤材料、基礎地盤の遮水性の改良、ダムの耐震設計手法の高度化、ダムの嵩上げなどの再開発や再整備に関する技術課題の研究・検討を進めてきました。また、近年は地下ダムの開発に関する研究・検討も実施しました。

このシンポジウムは、平成24年度に第6期研究期間(平成22～24年度の3年間)を終了したことから、この間のダム研究委員会の研究成果を広く農業用ダム技術者へ周知するとともに、参加者が抱える各ダムの技術課題の解決に向けた糸口を見いだすことを目的に企画しました。ぜひご参加下さい。

1. 日時 平成25年11月22日(金) 10:00～17:30
2. 場所 Learning Square 新橋

港区新橋 4-21-3 新橋東急ビル ☎ 0120-677-783

3. プログラム

- 10:00～10:20 挨拶
- 10:20～17:00 講演
- 17:00～17:30 総合討論
- 17:30 閉会

4. 参加費 無料

5. 参加申込み

氏名、所属、連絡先を明記の上、下記あてにE-mailをお送り下さい。

6. 申込み・問合せ先

農業農村工学会事務局 調査研究部 菊辻
☎ 03-3436-3418 E-mail: tkiku@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成24年度までに65件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

CPD 単位の算出基準の一部改定について (平成25年度以降)

農業農村工学会技術者継続教育機構では、第22回CPD運営委員会(平成25年1月28日開催)において「CPD単位の算出基準」の検討を行い、平成25年度以降の研鑽記録を対象として、次の4つの教育形態区分の算出基準を改定いたしました。なお、詳細については本誌3月号(Vol.81/No.3)掲載のCPDニューズレター第17号および機構ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>)をご覧ください。

① 【d】(認定されていない研修会等の受講)の年間上限値

を20CPDとする

② 【p】(認定されていない研修会等の講師)の年間上限値を20CPDとする

③ 【r】(成果を上げた業務—優良工事の表彰等—)を1件20CPDとする

④ 【x】(自己学習)の年間上限値を、農業農村工学会員については自動登録分の10CPDと自己申請分の10CPDを合わせ20CPDとする

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま安価に取

得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会

員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24CPDを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加下さい!!

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌11月号掲載の問題は12月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2CPDを、7~9問正解で1.5CPDを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPDは、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記載方法の変更について

論文集企画・編集委員会では、論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記載方法について会員からの意見も参考に検討を行った結果、従来の「無記名方式」から、平成25年4月1日の投稿より「記名方式」に変更いたしました。

今後の投稿においては、氏名・所属とも記名としていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

詳細は「投稿の手引き」(http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/doc/how_to_submit_20130314.pdf)をご覧ください。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 81, 82 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
81巻 12号 私のお薦めのシミュレーションモデル (仮)	公募終了
82巻 1号 利用形態の多様化・高度化に対応した農業水利施設の更新についての技術的課題 (仮)	公募終了
2号 都市農業を支えるしくみと取組み (仮)	公募終了
3号 東日本大震災から3年 (仮)	公募終了
4号 コスト縮減に資する農業農村整備 (仮)	11月15日
5号 農業農村工学の発展に向けた各研究部会の取組み (仮)	公募なし
6号 大会特集号 (京都支部) (仮)	公募なし
7号 多様な資材と農業農村整備 (仮)	2月14日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

82巻4号テーマ「コスト縮減に資する農業農村整備」(仮)

農業農村整備は、将来にわたって食料を安定的して生産するため、農地や農業用施設などのストックを次世代に引き継ぐ重要な役割を担っています。現在、持続可能な国家機能・社会構

築を図るために国土強靱化や国際競争力強化の方向性が各分野で論じられていますが、農業農村整備も限られた財政状況の中で最大限の効用を着実に発揮し、より一層の効果的・効率的な

実施が求められており、計画・設計・施工・調達の最適化などによるコストの縮減、ライフサイクルコストの検証を含めたコスト低減などについて、引き続き取り組んでいくことが肝要です。さらには、多様な主体との技術連携などを通じて、新技術や新素材を積極的に導入し、そのデータの収集・蓄積を通じて経済性や耐久性について評価する視点も大切です。

そこで、本特集では、農業農村整備における「工事コストの

縮減」や「新技術導入」をはじめ、工事コスト以外の「長寿化によるライフサイクルコストの改善」、「事業便益の早期発現」、「工事に伴う環境負荷の低減」などの「農業農村整備事業等コスト構造改善プログラム」に掲げられた総合的なコスト構造改善の取り組み事例を紹介する報文や、さらに今後の農業農村整備における低コスト化技術の目指すべき方向性や課題などを提示する報文を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.025と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年4回

購読料 : 正会員・名誉会員 12,000 円

学生会員 (院生含む) 8,500 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお2013年発行予定のVol.11はNo.1~No.4の合併号が2013年1月に発行されておりますので、購読の申込みをいただきますと、この合併号をお届けし、次回は2014年3月頃の送本となります。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2013年1月末にVol.11, No.1~No.4の合併号が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルはIF=1.025と高い評価を得ております。

また、世界14カ国からEditor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負

担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。
投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL : +81-92-642-2909 FAX : +81-92-642-2914

E-mail : yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 23 名
- ・ Editing Board 27 名
- ・ Managing Editors

Chief Management Editor : Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering,

Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社 : Springer-Japan 社

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

北海道支部第 34 回シンポジウムの開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 25 年 12 月 3 日 (火) 9 : 30 ~ 15 : 00 (予定)
2. 会 場 札幌サンプラザ コンサートホール
(札幌市北区北 24 条西 5 丁目, 地下鉄南北線「北 24 条駅」1 番出口から西へ徒歩 3 分)
※北海道大学学術交流会館から変更になりました。

3. テーマ

「北海道における大区画圃場の整備」

担い手への農地の集積にともなって経営規模は拡大しており, 大型農業機械による作業効率を高めるために, 圃場の大区画化が進められています。これと呼応し, 営農面においても直播栽培や新たな輪作体系の導入などの営農が展開されてきています。これらに対応する基盤整備技術が進展する一方, 新たに生じる課題への対応も求められてきています。

本シンポジウムでは, 北海道の水田農業における大区画圃場の整備にかかわる課題を整理し, 農地基盤の維持持続について展望します。

講師およびプログラムについては調整中です。北海道支部ホームページにてご案内する予定です。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

4. 参加申込み

下記様式により, E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成 25 年 11 月 22 日 (金) です。

所属機関

同上所在地

申込代表者

TEL

氏 名	所 属	備 考

5. 申込み・問合せ先

〒060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目

北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当 : 柏木淳一 E-mail : kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

☎ 011-706-3641 FAX 011-706-2494

6. 参加費用 2,000 円

平成 25 年度資源循環研究部会研究発表会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



資源循環研究部会では, 農村における水循環やバイオマス利用に係る技術の発展および技術者・研究者などの学術交流を目的として研究発表会を開催することとしています。平成 25 年度は, 「資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指して」をテーマに, メタン発酵消化液の輸送および集落排水施設の微細気泡装置に関する研究発表を行います。

また, 発表会の開催に当たっては, 農林水産省バイオマス循

環資源課長としてバイオマス利用の施策に取り組んでおられる谷村栄二氏から基調講演を頂きます。

皆様のご参加をお待ちしています。

1. 日 時 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 10

2. 会 場 5 東洋海事ビル 会議室 A, B (地下 1 階)
(東京都港区新橋 3-2-5)

3. 主 催 (公社) 農業農村工学会 資源循環研究部会

4. 後援 (一社) 地域環境資源センター

5. プログラム

I. 基調講演

農林水産省バイオマス循環資源課長 谷村栄二

II. 事例報告

「ベトナム南部の水稲作でのメタン発酵消化液利用にかかわるエネルギー評価」 農村工学研究所 柚山義人

「メタン発酵消化液の追肥利用に伴う田面水中衛生指標菌および窒素の動態」 農村工学研究所 折立文子

「農業集落排水施設の省エネ技術導入実証の調査結果」

(一社) 地域環境資源センター 佐藤 進

「ソフトセルローズの利活用によるエタノール製造の取組み」 (一社) 地域環境資源センター 品田 司

III. 研究発表 (座長: 凌 祥之)

① 「中間貯留槽導入によるメタン発酵消化液の輸送作業量の削減策の解析」 農村工学研究所 山岡 賢

② 「超微細気泡散気装置を用いた場合におけるばっ気槽有効水深に対する水槽横幅の寸法比に関する検討」

(株) 西原環境 安中祐子

6. 参加申込み

(1) 申込方法

下記の聴講申込事項を E-mail または FAX により下記申込先までお送り下さい。

なお、資源循環研究部会未加入の方は、聴講申込みと同時に入会届も提出できます。

(資源循環研究部会会員は、入会金、年会費とも無料です。)

(聴講申込事項、様式は URL : <http://www.jarus.or.jp/sign/> よりダウンロードして下さい。)

①所属機関, ②住所, ③申込代表者氏名/電話番号, ④参加申込者氏名 (学会員/資源循環研究部会員 (2,000 円), 学生 (1,000 円), 一般 (3,000 円) の区別)

(2) 申込期限 平成 25 年 11 月 13 日 (水)

(3) 聴講費用

農業農村工学会員/資源循環研究部会員 2,000 円
学生 1,000 円, 一般 3,000 円

聴講費用は、当日の混乱を避けるためなるべく振込みをお願いします。

(4) 振込口座および振込期間

みずほ銀行 浜松町支店 普通預金 2220983

口座名義: 農業農村工学会資源循環研究部会

振込期限: 平成 25 年 11 月 13 日 (水)

7. 申込先および問合せ先

農業農村工学会資源循環研究部会

事務局: (一社) 地域環境資源センター

集落排水部企画調整班 (担当: 井上, 大瀧)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

☎ 03-3432-6282 FAX 03-3432-0743

URL : <http://www.jarus.or.jp/sign/>

E-mail : sign@jarus.or.jp

農地保全研究部会第 34 回研究集会の開催について (第 3 報)

テーマ「東日本大震災により被災した農地の復旧・復興のいま」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会では、第 34 回研究集会および現地研修会を開催します。プログラムや参加申込みについては下記のとおりです。

1. 開催日

(1) 研究集会 平成 25 年 11 月 26 日 (火)

(2) 現地研修会 平成 25 年 11 月 27 日 (水)

2. 場所

(1) 研究集会 宮城県管工業協同組合

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3-5-22

宮城県管工事会館

宮城県庁から東へ徒歩 3 分

☎ 022-265-6711

(2) 現地研修会 宮城県仙台市周辺

3. 研究集会内容

(1) 研究集会 11 月 26 日 (火)

9:30~10:00 受付

10:00~10:10 部長挨拶 北里大学 長利 洋

10:10~11:10

講演 1 「食と農の再生に向けた放射能対策の現在とその社会的実装」

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

産業復興支援部門農業復興支援担当特任准教授

石井秀樹

11:10~12:10

講演 2 「農地における物理的除染技術の開発の現状と今後の課題 (水田を中心として)」

農村工学研究所水利工学研究領域長 中 達雄

12:10~13:10 昼食 (周辺の食堂をご利用下さい)

13:10~13:50

講演 3 「福島県における農地復旧の取組状況」

福島県農林水産部

13:50~14:30

講演 4 「宮城県における農地復興の取り組みについて」

宮城県農林水産部農地復興推進室室長 郷古雅春

14:30~15:10

講演 5 「復興状況報告について」

- 互理土地改良区 三品祐二
- 15:10~15:50
講演6「農地・農業用施設の復旧とこれから」
東北農政局整備部防災課長 山田育夫
- 15:50~16:20
情勢報告「除染に関する情勢報告」
農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐 柴田伸亮
- 16:20~16:30 休憩
- 16:30~17:00 総合討論
(なお、内容については一部変更の可能性があります)
- 18:00~ 情報交換会 会場:パレス宮城野(仙台市青葉区上杉3-3-1)
- (2) 現地研修会 11月27日(水)
- 8:40~8:55 受付(受付場所は、JR 仙台駅西口)
- 9:00 仙台駅発(バス)
- 9:40~10:10 仙台東地区大堀排水機場復旧状況視察
- 10:20~10:50 仙台東地区復旧状況(農地復旧・区画整理)視察
- 10:50~11:20 仙台東地区営農再開状況視察
- 12:00~12:40 昼食(互理町内)
- 13:00~13:30 互理・山元農地海岸地区(吉田砂浜海岸堤防)復旧状況視察
- 13:40~14:10 復興交付金事業(イチゴ団地)視察

- 14:20~15:00 互理土地改良区関連復旧状況視察
- 15:30 仙台空港着
- 16:30 仙台駅着
(なお、内容については一部変更の可能性があります)

4. 参加費および申込み

- (1) 参加費 研究集会 3,000円
情報交換会 5,000円
現地研修会 4,000円
(昼食代1,000円含む)

(2) 申込み・問合せ先

北里大学獣医学部生物環境科学科
環境計画学研究室 柿野
〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町35-1
E-mail: kakino@vmas.kitasato-u.ac.jp
☎0176-23-4371(代表)内線452
FAX 0176-23-8703

(3) 申込締切 平成25年11月13日(水)

(4) 支払い方法 銀行振込

- ・ゆうちょ銀行から振込みされる場合
ゆうちょ銀行 記号18420 普通16136331
- ・他銀行から振込みされる場合
ゆうちょ銀行 店番848 普通16136331
農地保全研究部会

平成25年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について

材料施工研究部会では、平成15年2月発刊の図書「建設材料-地域環境の創造-」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる研究発表を表彰いたします。平成25年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

なお、過去の受賞者は本部会 HP: http://www.ee.kochi-u.ac.jp/zai_seko/index.html をご参照下さい。

平成25年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞 募集要領

1. 対象者

- (1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。
- (2) 該当する研究の主体者でかつ発表者または第一著者であること。
- (3) 既受賞者は3年間選考対象から除く。

2. 対象研究発表

- (1) 平成23年4月から平成25年3月までに発行された農業農村工学会の論文集、学会誌、あるいは平成23年4月から平成25年3月までに開催された同学会大会講演会、同学会研究部会シンポジウムの材料施工関連分野で発表

された研究であること。

- (2) 発表された研究は、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる内容であること。
- (3) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質力学部門などを指す。

3. 応募資料

- (1) 推薦書(A4用紙1枚程度。ただし、書式は任意)
候補者の①氏名、②所属機関名、③役職、④生年月日、⑤会員番号、⑥連絡先(住所、TEL、FAX、E-mail)および⑦候補となる研究発表の概要(著者、題目、発表誌名、巻・号・頁、発表年月)、⑧推薦理由、をA4用紙1枚程度で明記したもの。他薦の場合は、推薦者に関する①~⑥も併せて明記すること。

- (2) 候補となる主たる研究発表1件の別刷り

※(1)、(2)いずれもPDFを下記部会長あてに送信すること。

4. 応募締切

平成25年12月6日(金)

5. 応募先・問合せ先

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3-1-1
岡山大学大学院環境生命科学研究科内
材料施工研究部会 部会長 西村伸一

☎ 086-251-8162 E-mail : theg1786@cc.okayama-u.ac.jp

6. 審査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が審査し、1~3点の奨励賞を選定する。審査結果は、平成25年12月中旬までに受賞者に通知する。

7. 表彰

奨励賞に選定された研究発表は、平成26年1月に開催予定の本研究部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

「実務における新しいニューマーク法によるため池等堤体の地震時安全性評価手法」 技術講演会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



近年、大規模地震や集中豪雨によって日本各地に点在するため池が決壊し、下流域で人的災害を含む二次災害が発生しております。たとえば、地震災害に関しては2011年の東日本大震災では、約2,000個弱のため池が被災し、その被害総額は300億円以上にも及ぶものと想定されております。このような広域他所に及ぶ被害を受けて、農林水産省では地震に対して約14,000カ所を「警戒ため池」と指定しております。これら膨大なため池の耐震診断を実施するためには精度よくかつ簡易に堤体の安全性を診断する必要があります。

以上の背景のもと、龍岡文夫 東京理科大学教授、農村工学研究所、および(株)複合技術研究所を中心に、産官学の連合体形式で、土のせん断強度に及ぼす地震時の累積損傷度やひずみ軟化を考慮した新しいニューマーク法による地震時斜面変位の予測手法を開発いたしました。

つきましては、新しいニューマーク法によるため池堤体の耐震診断法説明会開催を下記のとおりご案内申し上げます。今回は、東海・南海・東南海地震の発生や地球温暖化に伴う集中豪雨による自然災害の危険性が増加しており、膨大な数のため池の安全対策が急務であることから、東京理科大学 龍岡文夫教授ならびに農村工学研究所 毛利栄征氏に、ため池堤体の地震時強度変形特性や過去の大規模地震による震災事例などについて、特別講演をしていただきます。お忙しい時期ではございますが、多数のご参加をお願い申し上げます。なお、先着100名にて締め切らせていただきます。お早目のお申込みをお願いいたします。

1. 主催 ため池等地震時斜面変形予測手法研究会
2. 後援 (公社) 農業農村工学会
3. 開催日時 平成25年11月12日(火) 13:00~17:00
4. 会場 スクワール麹町 5階 全芙蓉
(東京都千代田区麹町6-6 ☎ 03-3234-8739
JR・東京メトロ「四ツ谷」駅下車すぐ)

5. 参加料 無料

6. テキスト 講演資料(当日受付時に無料配布)

7. スケジュール

13:00~13:05 開会の挨拶 研究会事務局 田村幸彦

13:05~14:05 特別講演①

(仮題) ため池堤体の地震時強度・変形特性について

東京理科大学教授 龍岡文夫

14:05~15:00 特別講演②

(仮題) 耐震設計を取り入れた設計指針「ため池整備」の基本的考え方

農村工学研究所施設工学研究領域領域長 毛利栄征

15:00~15:10 休憩

15:10~15:40

(仮題) 耐震性診断のためのため池堤体強度試験方法について 農村工学研究所施設工学研究領域 上野和広

15:40~16:10

ニューマーク法による地震時斜面変位の予測プログラムの概要 (株)複合技術研究所 矢崎澄雄

16:10~16:40

ニューマーク法による地震時斜面変位の予測プログラムによる解析事例

(株)複合技術研究所 デューティン・アントワン

16:40~16:50

ため池等地震時斜面変形予測手法研究会について

研究会事務局 岡本正広

16:50~16:55 閉会の挨拶

研究会事務局 岡本正広

8. 問合せ先

ため池等地震時斜面変形予測手法研究会事務局

((株)複合技術研究所内)

☎ 03-5368-4103 FAX 03-5368-4105